

青年会議所に関する意見書

【氏名】森屋 真一郎

「挑戦でつくる未来」

「君は現状に満足していますか。」これは青年会議所へ入会し、活動に慣れてきた頃にある先輩に問われた言葉です。その時私は、曖昧に返事をしてしまいました。「会社も青年会議所活動も自分が思っているところまでしか行けない。限界を決めずに、何でも挑戦してみたら良いよ。」と仰っていただいたことをきっかけに、挑戦と失敗を繰り返してきました。挑戦し続けることや失敗から学び改善していくことで、思考が変わり、行動も変わり、不思議と少しずつ仕事やプライベート、青年会議所活動でも良い循環が生まれるようになりました。

挑戦することがより大切だと考えているのは、世の中の変化が加速しているためです。ChatGPTなどAIの進化に代表されるように、1年前と変化しないことはすなわち後退にも等しいような時代です。そのような中でも私たちは青年会議所会員であるからこそ、誰もが会社を今より発展させたいですし、家族とも円満でいたいはずです。そして自身が住んでいる地域をもっと誇れるものにしたという社会貢献を考えています。それを起こせるのは、自己成長の成果です。だからこそ、私たちは挑戦することを躊躇わず、変化を起こすことで生まれる新たな価値を社業や家族、地域に活かしていかなければなりません。過去と他人は変えられませんが、自分と未来は変えることができます。そのために、今挑戦することが最も重要なのです。

そして、世の中をより良く変えていくことは青年会議所だけでは成しえないことです。企業や団体などと新たにパートナーシップを築き、常識に囚われない新しい発想で挑戦していくことで、山梨ブロック協議会の運動に新たな価値を生み出します。

2024 年山梨ブロック協議会は現状に満足せず、次世代育成やパートナーシップの強化を念頭に置き、変化や失敗を恐れず新しい挑戦を行う人財を育成していくことで、希望あふれる地域を創造していきます。

VISION 希望あふれる地域の創造

MISSION 共に挑戦し、新たな価値を創造できる人財の育成

VALUE 次世代育成強化とパートナーシップ強化

【パートナーシップがもたらす可能性への挑戦】 ※全体共通

青年会議所の事業がより社会的にインパクトを与え、社会により良い変化をもたらす為には、パートナーシップを意識することが欠かせません。私は 2022 年度、日本青年会議所国際シナジー創出委員会に副委員長として出向しました。担当は SDGs Goal6 の水の課題に取り組む SMILE by WATER 事業であり、カンボジアで衛生的な手洗い場を作ることがミッションでした。これは国際的な事業であり、必要となる予算も大きな事業でした。そこで、以前より協力関係にあった大手飲料メーカー様や地元の方とご縁のあった現地のサッカーチームのオーナーの方に協力いただくことで、道筋を立てることができました。また、青年会議所の先輩が役員をしていたスポーツ関連の協会様は社会貢献を考えており、主旨に賛同いただき、全国 116 か所で PR することができました。このことにより、事業を実施できる協賛を集めることができ、カンボジアで手洗い場の設置が出来ました。事業を通じて、住民の方が心から喜んでいただいた笑顔を忘れることはできません。そしてこれは、委員会単独では決してできない結果であり、つながりの可能性を大いに感じた経験でした。また、スポーツ関連協会においては、その後も SDGs の推進に積極的になっていただくなど、青年会議所運動の波及効果を感じる事業となりました。

今年度は山梨ブロック協議会の運動を丁寧に説明しビジョンを伝え、企業や団体とのパートナーシップを意識し、目指すべき方向性が合致する方々との共創や協賛による事業構築、事業継続などの新たな可能性に挑戦していきます。

【希望にあふれた人財の育成への挑戦】 ※人財育成委員会 （人財育成塾、JCカップ）

希望にあふれる状態とはどのような状態でしょうか。それは、何か目的に向かって行動や挑戦している状態であり、たとえ困難なことがあった際にも、自ら立ち向かうことができる状態であると思います。

本年度、山梨ブロック協議会では年間を通じての人財育成塾を開講し、青年会議所での自分自身の目的を定めることができる人財育成を行っていきます。目的を設定することで主体的に活動することができ、県内各地の同じ次世代を担う会員と共に切磋琢磨することは、LOM では経験できない刺激となります。メンバーにとっては、この経験で得た挑戦するマインドが、次年度以降も新たに挑戦していく良いサイクルとなり、山梨ブロック協議会全体として運動の推進力向上につながります。また、年間を通して日本青年会議所、地区協議会、ブロック協議会に挑戦している方々の体験を聞く機会をつくることは、出向に興味を持ち今後出向者が増加していくことも期待できます。

青年会議所では、JC カップ U11 少年少女サッカー大会を開催していきましました。本年度もスポーツを通じ、目的意識を持つための青少年育成事業を行います。目的を持ち挑戦することで、勝敗だけに囚われず、自身に対しての成果と課題を感じていただきます。また、多くの仲間とともに取り組むことで子供たちのさらなる成長につなげていきます。希望にあふれた子供たちが地域に増えることで、より良い変化を地域にもたらし希望にあふれた地域の未来につながっていきます。

希望にあふれ、挑戦し続ける人財の育成に挑戦していきます。

【LOM 連携への挑戦】 ※LOM 連携委員会（拡大、広報、プラットフォーム）

10 年前には期首 300 名強だった山梨ブロック協議会は、現在 240 名を下回っており、会員の減少が進んでいます。そのような中でも、運動を展開するための組織維持や、より多くの若者に発展と成長の機会をもたらすために、会員拡大は大変重要な課題です。会員拡大では行動を継続していくモチベーションが何より重要であるため、山梨ブロック協議会として、拡大意識を高めるための機会を設けていきます。そして、拡大と共に近年課題となっているのは退会者の数です。入会后、活動にあまり参加せず退会してしまう理由で最も多いのものは、LOM 内で入会後のフォローが不足してしまうことです。そのため、本年度は日本青年会議所の拡大委員会や県外の青年会議所と連携し、拡大意識の向上を図ると共に入会后フォローの可視化、明文化を行います。フォロー体制の強化により退会者を抑制し、新入会員が各 LOM の内で活躍していける土台作りの支援を行っていきます。

新入会員とともに既存の会員が青年会議所活動を続けていくために、会員同士のつながりを作り、仲間となっていくことで活動をより楽しめることは大切なことです。山梨ブロック協議会内では、「山梨は一つ」という言葉が使われます。今年度はこれを体現するために、会員向けの情報を強化します。各 LOM の活動を共有するため、プラットフォームを確立し、情報共有を通じて山梨ブロック内の LOM 同士の交流がさらに活発となることは、メンバーにとって大変有益です。加えて、日本青年会議所や関東地区協議会出向者の活動情報発信を行い、連携を強化することで、山梨がより一つになります。これらの循環を回していくことで、メンバーの満足度が向上し、会員拡大にもつなげる連携をつくることに挑戦していきます。

【当事者意識で政治を身近にする挑戦】 ※地域創造会議体（公開討論会支援、政治を身近に感じる事業）

全国的にみて、選挙における投票率は下がり続けています。これは、政治や政策を自分事として考えることができていないということだと思います。しかし、まちづくりにおいて、首長や議員、議会が大きな役割を担っていることは目を背けるべきではない事実です。まちづくりに真剣に取り組む私たちは政治をもっと身近に感じ、考える必要があります。そして、それはこれからを担っていく若者も同様です。

青年会議所は各地域において、公開討論会を開催してきており、公平中立な立場から県民、市民の皆様に候補者の考えや、人となりを知っていただくことが重要であるからです。山梨ブロック協議会としては、各 LOM より求められる場合には公開討論会支援を行います。そして、本年度はそれ以外に、政治をもっと身近に感じ、考えていただくため、県議会などと連携し、若者やメンバーの新たな機会の創出に挑戦します。

【地域と共に挑戦し、魅せるブロック大会への挑戦】

※ブロック大会運営委員会(ブロック大会、ブロック大会に向けた事前事業)

2024 年は上野原の地にてブロック大会を開催いたします。上野原市はかつて甲州街道の宿場町として栄え、多くの旅人が訪れた面影を残しており、当時から愛された酒まんじゅうは今でも上野原市の名産です。そして、面積の約 8 割が森林であり、多くの自然に恵まれており、東京都とのアクセスの良さから休日には多くの登山客などが訪れています。一方で、若者の地域離れなど東京に近いことが問題となっている地域です。上野原市に限らず、東京都や神奈川県など首都圏に面した山梨県では、若者の地域離れが深刻な課題となっています。若者が地域を愛し、いつまでも地域で暮らしていきたいと感じるような新たな価値の創造が大切だと考えます。上野原青年会議所では、日頃から行政や学校、民間団体と連携をして事業を行っています。ブロック大会においてもパートナーシップでのまちづくりで地域愛につながる新

たな価値の創造を行っていただくことや、かつて宿場町として栄えたように市外や県外との交流からも新たな価値の創造に挑戦していきます。また地域愛が生まれるブロック大会を行うことは、大会後も地域に価値が残るとい地域益につながります。

地域と共に挑戦し、地域と山梨ブロック協議会をしっかりと魅せるブロック大会を開催することで、主管益、主催益そして、参加益にもつながります。地域と共に魅せる山梨ブロック大会へ挑戦していきます。

【組織運営改革への挑戦】 各委員会運営、ブロック協議会運営

近年、山梨ブロック協議会の委員会運営は、出向メンバーに対し発展と成長の機会を与えられなくなってきました。もちろん、コロナ禍により交流できなかったという要素は大きいものですが、より根本的な部分では、議案の作成に労力を取られすぎて、委員会を開催できていないという課題があります。そこで、改めて委員会運営を見直し、副委員長や運営幹事などを決めることで、出向メンバーに機会を提供します。これは基本的なことですが、山梨ブロック協議会内に仲間が増えることで、翌年以降の出向に挑戦する意欲が高まります。

また、山梨ブロック協議会役員の成り手が少なくなっていることも課題です。これは、活動を知らないことや、役員だったメンバーから大変だと聞いていることが原因だと考えられます。たしかに責任はあり、大変な面もあります。だからこそ、本年は組織運営改革を実施し、心理的安全性と生産性の高い運営に挑戦します。心理的安全性が高い運営とは、真剣な議論の中でも努力しているメンバーの頑張りを否定せず、フォローがあり、やる気を高めることを意識した状態です。一つの指標としては、委員長が輝く組織を目指します。そして、生産性に関しては、例年の慣習に囚われずに、要素を見直し、より付加価値の高いことに挑戦します。やるべきことはやりつつも、余裕と楽しさを持った運営を目指します。

これらのことを実施し、山梨ブロック協議会がチームで助け合いながら運営する在り方を示すことで、各地青年会議所へも良い影響を与えることへ挑戦していきます。

【結びに】

戦後間もない荒野の地で日本における青年会議所運動が始まった時も、決して誰もが未来に希望を持てるような時代ではなかったと思います。そんな中で、青年会議所は、その時代の問題に果敢に挑戦し、地域に未来への希望をつくってきました。

変化が早い現代で山梨ブロック協議会、県内 LOM 共にも多くの課題を抱えており、挑戦していくことは決して簡単なことではありません。しかし、私たち JAYCEE は知っているはずです。

When everything seems to be going against you, remember that the airplane takes off against the wind, not with it.

自分に逆風が吹いていると感じるときは、思い出してみよう。飛行機は向かい風によって離陸するのであって、追い風に乘ってではないことを。(ヘンリーフォード)

向かい風が強ければ強いほど私たちは、強く、高く飛び上がることができる青年です。失敗は成功へのステップです。あなたは、一年前と同じ場所にいますか。現状に満足できていないのであれば、今挑戦をするべきです。

飛び立つ空、未来には無限の可能性があります。失敗を恐れず、常識に囚われず、挑戦でつくる未来に向けて、ともに飛び立ちましょう。